

小規模事業者

# 経済動向調査報告書

<那珂市>

2020年7月～9月期

那珂市商工会

## 1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

## 2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

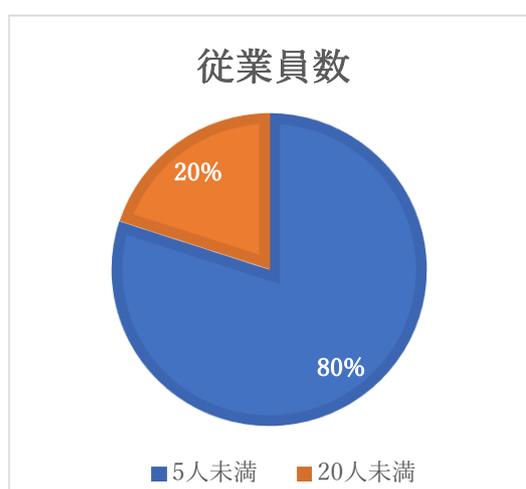
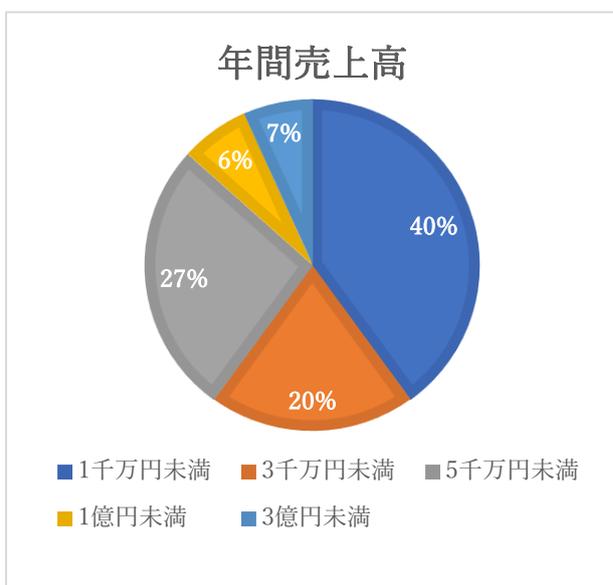
## 3. 調査事業者

- |               |     |
|---------------|-----|
| ① 製造業         | 3 社 |
| ② 建設業         | 2 社 |
| ③ 小売業（卸売業を含む） | 4 社 |
| ④ サービス業       | 6 社 |

## 4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響を調査。

## 5. 事業者の規模



## I. DI 分析

表1：2020年7月～9月のDI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-66.7%	-66.7%	-50.0%	-50.0%	-83.3%
販売単価	-13.3%	0.0%	0.0%	-25.0%	-16.7%
経常利益	-66.7%	-66.7%	-100.0%	-50.0%	-66.7%
資金繰り	-33.3%	0.0%	-50.0%	-25.0%	-50.0%
人材確保	-6.7%	0.0%	-50.0%	0.0%	0.0%
景況感	-66.7%	-66.7%	0.0%	-75.0%	-83.3%

- 全体を見ると、前回（2020年4月～6月）に比べ、さらに状況が悪化していると見受けられる。
- 特に、建設業が業績（売上高・経常利益）を著しく悪化させている様子が窺える。
- 資金繰りについては、全体としては前回と同様だが、建設業も悪化しており、徐々に全業界にコロナ禍の影響が蔓延してきている様子が窺える。
- 建設業において、業績低下の割に景況感は改善されている。引合いの増加など今後の受注増や延伸していた工事の完了の目処が立つなど明るい兆しがある可能性が推測される。

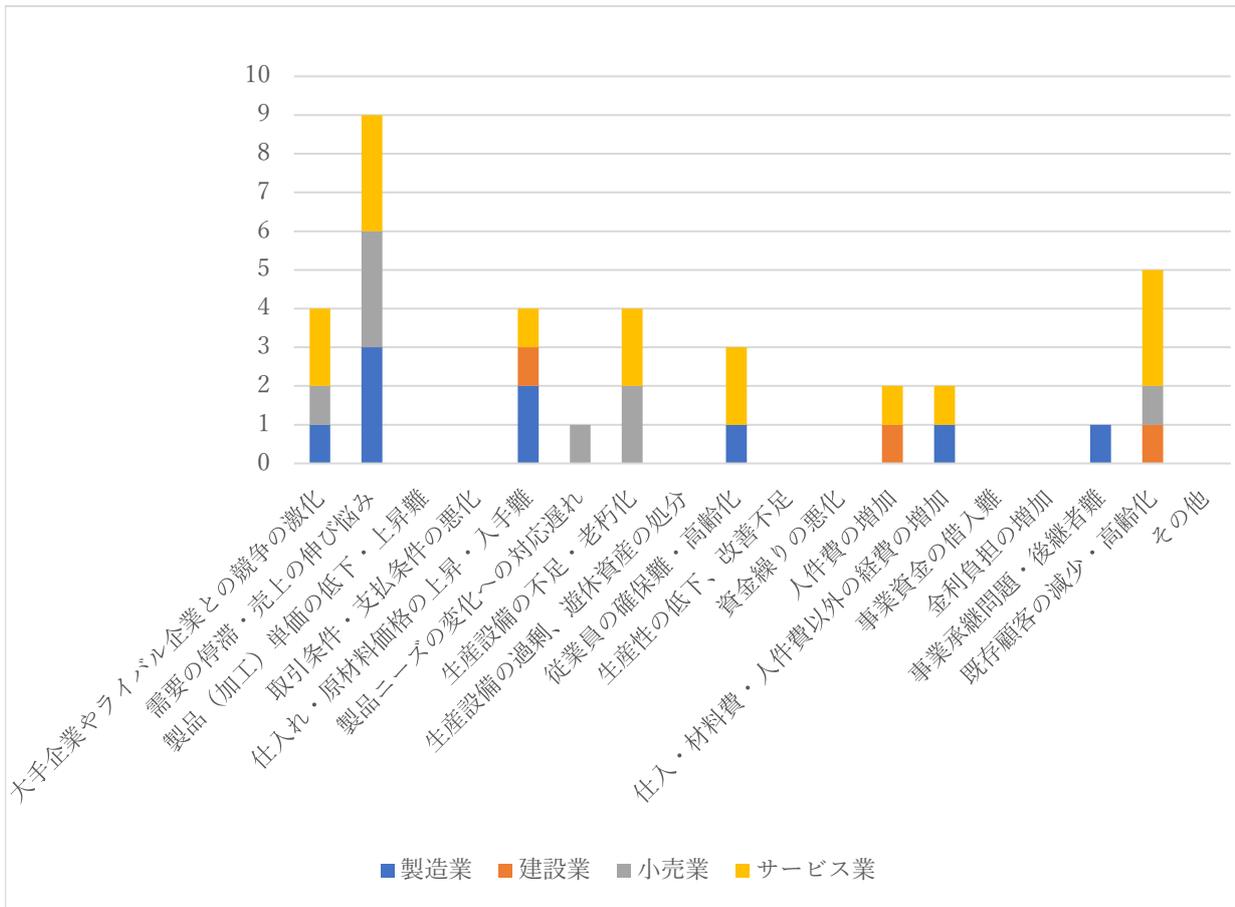
### DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

## II. 課題意識調査

図1 2020年7月～9月の課題意識



- 前回と比べ、製造業においては需要・売上がさらに伸び悩んでいる様子が窺える。この結果はDI値と整合性がある。
- 一方、建設業は需要・売上が堅調と見受けられるが、これはDI値と異なる結果と言える。実績としての業績は低迷しているが、先行きには不安を感じていないため、特に問題視していない状況が推測される。そう考えると、DI値の景況感が改善されていることも納得できる。
- 需要・売上の低迷の一方で、競争は緩やかになっている様子も窺える。コロナ禍により経済活動が抑制されていることが背景にあると推測される。
- 製造業において、原材料の仕入難・価格高騰が窺える。また、製造業では経費負担も増しており、利益を圧迫している様子が垣間見れる。売上高の低迷に加え、経費増が経常利益のさらなる低迷につながっていると推測できる。
- サービス業においては、人件費やその他経費負担が増えており、コロナ禍での長引く業績低迷により固定費が賄えなくなっている様子も窺える。
- 小売業やサービス業では設備の不足・老朽化も問題になってきている。
- 製造業では、従業員の確保難・高齢化が緩和されている。前回の推測通り、人材確保に成果があり、そのことが今回反映されているように読み取れる。

### III. 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響

図2 コロナ禍による経営の悪化の推移

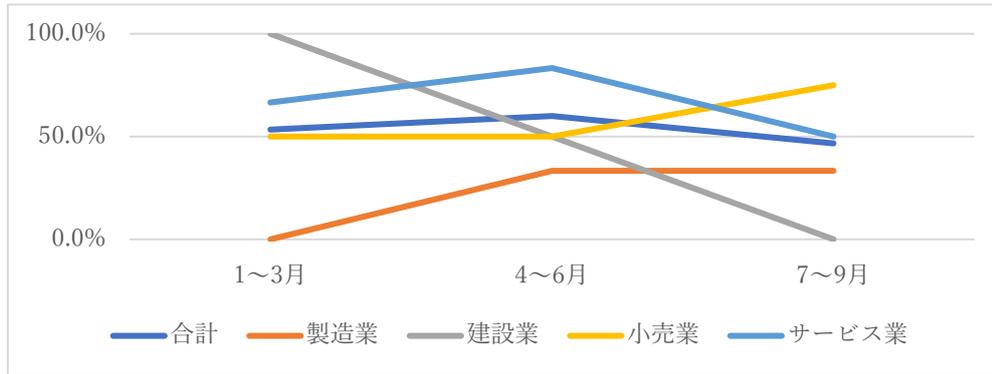
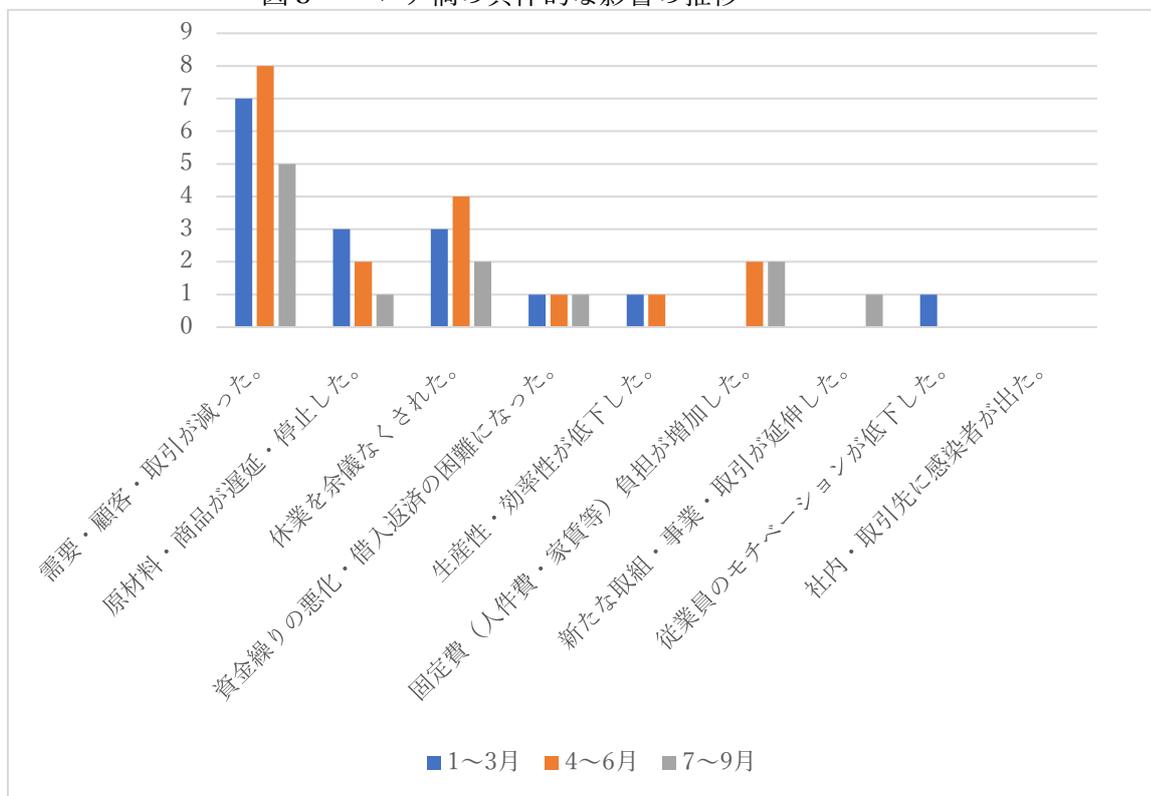


図3 コロナ禍の具体的な影響の推移



- 前回に比べ、全体的には若干持ち直している様子が窺えるが、DI 値では改善されている様子は見受けられないため、これは状況が改善されたと言うよりも苦しい状況が変わらず推移していることを示唆していると読み取れる。
- 需要・顧客・取引の減少についても下げ止まりの状況であり、販売量の減少に伴い、原材料・商品の遅延や停止も負担にならない状況になっていると判断される。
- サービス業は一旦落ち着いているが、小売業は経営悪化に歯止めがきかない様子が窺える。
- サービス業については、コロナ禍が一時的に沈静化している時期で来店客数も回復しつつあるため、業績も多少好転していると推測できる。

以上

